

# えんがわ

第67号

2012年10月発行

発行元 衣笠病院グループ  
衣笠須賀市小矢部  
2-23-1  
Tel 046-852-1182

## あれから10年

「新しく長瀬に建てるケアセンターで、大型のデイサービスを始めると、古屋君、そっちに行ってもらえる？」と上司に声をかけられてから十年が過ぎました。小学生の頃から横須賀に住んでいながら「長瀬」という地名を聞いたことがなかった私は「長瀬って横須賀？荒崎のほうかな？」などと悩んだことを思い出します。あれから十年、デイサービスのご利用者は一、七十名を超え、地域の相談役である「在宅介護支援センター」は「地域包括支援センター」に衣替えするなど、様々な変化を見せる中、私事ではござ

います。六月一日より所長をまかせていただくようになり、町内会の盆踊りや、ご近所さんの久里浜刑務所から「夏祭り」や「運動会」に誘っていただき、業務以外でも長瀬との関わりも深くなりました。その愛着は「第二の故郷」というよりも「私のお家」のようでもあります。「私の家族(利用者)とスタッフ」がいつまでも笑顔で過ごせる「お家」であるように、縁の下から支えていきたいものです。

衣笠病院長瀬ケアセンター  
所長 古屋英樹



## えんがわ在宅 ひとくちメモ

### 在宅医療の

### 連携について

病気や障がいを持ちながら自宅や施設で生活する方が増えています。安心して安全に心地よく在宅療養生活を続けるためには、医療・福祉・保健の連携が必須です。そのような在宅ケアの連携を強めるため、昨年度から厚生労働省は予算をつけて在宅医療連携拠点事業という委託事業を始めました。衣笠病院グループは今年度申請し、厚生労働省から在宅医療連携拠点事業の委託を受けることになりました。連携に関わる様々な課題を明らかにし、解決をはかっていく予定であり、すでに少しずつ事業をはじめているところです。わた

したちは様々な事業を持つている強みを生かして横須賀で在宅ケアを行なっているグループ内外の事業所と連携を広め、深めます。そして、病気や障がいを持つた方が希望する場所で希望するよう療養できる環境づくりを行います。この事業を行うために『チーム衣笠』という五人のチームを結成しました。五人組と言えは「ゴレンジャー」や「嵐」が思い起こされますが、横須賀の在宅医療連携五人組と言えは『チーム衣笠』となるようにがんばります！

湘南国際村クリニック  
医師 大友 宣

すっかり涼しくなり、やっとな秋の到来です。「○○の秋」とよくいいますが皆様は○○に何を当てはめますでしょうか。私は断然、食欲の秋です！